

同 和 問 題 (道 徳) 学 習 指 導 案

板 野 中 学 校

指 導 者 豊 田 淳 子

1. 主 題 誇りうる生き方を求めて

2. 主題設定の理由

同和問題学習を、学年全体学習という型で取り組んでいる、この教師集団に加わって早半年が過ぎた。少々とまどいながらも、この学年団にとけこもうとする毎日が続く。明朗で人なつっこい素直さをもった生徒達に、心やすらぐ時もあった。授業中には見られない生徒の姿が、全体学習の場にあった。涙ながら部落宣言をした生徒、自分の弱い心と必死に闘っている生徒、家族の差別心をとりのぞこうと努力している生徒、不当な部落差別の怒りを、教師にぶつけてくる生徒、弱い立場にある友達を、心から支えようとしている生徒、このようにさまざまな重荷や苦しみを背負って懸命に生きている生徒達。心の痛みを吐き出すかのように語る生徒の姿に、私は心を動かされ、涙をこらえることが何度もあった。自省してみると、私は部落差別の厳しい実態と、部落の人々の苦悩をどれほど自分自身の問題としてとらえてきたであろうか。このままではいけないと自責の念でいっぱいになった。私もこの生徒達といっしょに、部落差別解消に向けて本気で闘っていこうと決意した。

一学期、「同和教育への希い」を通して、丸岡忠雄さんの怒りと優しさに触れた。差別により故郷を名のれないという厳しい現実に対して憤りをもち、「かくす」ことから「名のる」ことへと、自己変革した丸岡さんの誇りうる生き方に共感した。そして、高らかに唱いあげた「ふるさと」の詩は、生徒一人ひとりの心の中に深く刻みこまれた。この三年生にも何人かの丸岡さんが生まれた。部落に生まれたことを恥じることなく、堂々と名のることができた強い意志をもった生徒が生まれた。ここまでくるには、どれほどの心の葛藤があったことか。信頼できる仲間がいたからこそ、他人の痛みを自分の痛みとし、他人の喜びを自分の喜びとして考えることのできる学級集団が、できあがりつつあるのだと思った。

「人の世に熱あれ、人間に光りあれ」と叫んだ全国水平社宣言。1922年(大正11年)、3月3日、京都の岡崎公会堂に集まった部落の兄弟姉妹3000人は、感動の涙でいっぱいであつたであろう。この宣言文の中に、何千何万の人々の姿が浮かんでくる。長い間しいたげられてきた部落の人々の、心の叫びが聞こえてくる。悪夢のような痛みや悲しみが感じられる。人間として生きることを阻害されてきた部落の人々が、自ら部落解放に立ち上がろうとする決意がこの宣言文にある。そして、自らの解放と共に、全ての人間の解放を願う強い気持ちが込められている。「長い間虐められて来た兄弟よ」と呼びかけた思いが私に伝わり、この感動をこの生徒達と共にかみしめたい。そして、人間の尊さ、あたたかさ、助け合い支え合うことのすばらしさを学びとらせたい。また、差別と闘った部落の人々から、人間として誇りうる生き方とはどうあるべきかを考えさせ、部落解消に立ち向かっていく意欲と実践力を求めて本主題を設定した。

3. ね ら い

厳しい差別の中で、人間としての真の生き方に共感させ、差別解消に立ち向かう意欲と実践力のある生徒を育てる。

4. 視 点 人権と差別

5. 指導計画

(1) 常時指導 「あゆみ」での指導により自らの生活を見つめさせる。

(2) 関連的指導 国語科「故郷」・・・5時間

差別によって変貌した故郷の人々に新しい希望の生活をさせるため、人間解放への道を歩く作者の生きざまに触れ、差別解消への意欲と実践力を養う。

(3) 核心的指導 水平社宣言・・・4時間（本時4/4）

(4) 発展としての関連指導 学級指導「すばらしい生き方に学ぶ」

(5) 常時指導（発展） 人間としての生き方を語り合い、支え合う集団づくりを目指す。

6. 本時の指導

(1) 目 標

厳しい差別にも負けず、人間としての尊厳をうたいあげた水平社宣言の精神に学び誇りうる生き方を考えさせ、差別解消への意欲を高める。

(2) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 水平社宣言を読み、心うたれたところ、感動したところを話し合う。	・心うたれ感動したことばを出させ、どんな思いが伝わってきたかを話し合わせる
2. 水平社宣言が私達に語りかけるものは何か話し合う。	・水平社宣言は、部落の人々の解放だけではなく、全ての人間の解放をめざしていることに気づかせるとともに、差別と闘う人間の誇りうる生き方に共感させる。
3. 部落問題にかかわる今後の生き方を考える。	・人間らしく生きるために、自分の生活の中でどうすればよいか考えさせる。

板野中学校

指 導 者 横 山 達 也

1 主 題 誇りうる生き方を求めて

2 主題設定の理由

学級とは、学校生活のなかで多くの時間を共にし、クラスの同じ仲間が励まし合い、助け合いながら、自らのよりよき方向や成長を遂げようとする大切な集団である。それゆえ、教師が日々実践のなかで、どれだけ生徒一人一人を見つめられているか、どれだけ生徒の願い・苦しみ・不安を受け止め、それを行動につなげられているのかが問われている。何でも話し合えるクラス、何かに挑戦するとき、一人の生徒の気持ちクラス全員の気持ちであるような学級にしていくため、日々生徒とかかわる一瞬一瞬を大切にしていきたい。

昨年から、体育館において学年全体による同和問題学習がスタートした。大勢の仲間たちが見守るなかでの学習であった。本年度は、中学校最終学年となり、一学期「自分以下を求める心」「同和教育への希い」等の学習を通して、自分のはっきりとした意見や自分と同和問題とのかかわりについて考え、差別解消にむけての本音の熱い議論になってきている。ある生徒が全体学習のなかで「いままでは真剣に取り組んでなかった、けれど今は体があつうなってきた・・」という意見を出した。そのときには、生徒と同じように、私自身も熱く感じるものがあり、特に印象に残っている言葉である。そして、学習会に参加している生徒の堂々とした意見や発表を聞くたびに、勉強、部活動を終えて、くたくたになりながらも、教科学習や部落問題学習に真剣に取り組んでいる姿が浮かんでくる。参加していない生徒も、同和問題解決によせる思いや願いは同じで、より強いのかもしれない。生徒たち自身がこれまでの同和問題学習で培ってきた信頼感や連帯感をこれからより強いものとする中で、差別解消への大きな力になっていくことと信じている。

大正11年、京都の岡崎公会堂において、「水平社宣言」が部落解放のみならずすべての人間の解放を高らかに唱えあげられた。そしてそれは、結びの言葉「人の世に熟あれ、人間に光あれ」に本当に力強く示されている。同和問題解決は、国民的課題であるといわれながら、いまだに解決されていない今日、今一度じっくりと「水平社宣言」を生徒たちとともに学習していきたい。そして「水平社宣言」を通して、厳しい差別のなかを生き抜いてきた人々が、自らを解放し、すべての人間の幸福を願い、闘いつづけてきたことを学ばせたい。そして、人間として誇りうる生き方とはどういう生き方なのか、自分たちは、これからどういう生き方をすべきなのかをじっくりと考えさせたいと思い本主題を設定した。

3 ねらい

厳しい差別のなか、解放への熱い願いがこめられてできた「水平社宣言」の精神を学び、人間として誇りうる生き方とは何かを追求し、自らの解放への力を育てる。

4 視点 集団と連帯

5 指導計画

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| (1) 常時指導 | 「あゆみ」を通して自己をみつめる |
| (2) 関連的指導 | 「ああ、飛驒が見える」・・・・・・・・・・3時間 |
| (3) 核心的指導 | 「水平社宣言」・・・・・・・・・・3時間（本時3/3） |
| (4) 発展としての関連指導 | 特活「人間としての生き方に学ぶ」 |
| (5) 常時指導（発展） | 何でも話し合い、支え合う仲間意識を高める。 |

6 本時の指導

(1) 目標

人間として誇りうる生き方について考えさせ、同和問題とかかわってどう生きていくのか述べさせる。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 水平社宣言を読んで、印象に残っていることを発表する。	・ 水平社宣言のどういう部分、言葉が印象深いのか話し合わせる。
2. 水平社宣言から何を学ぶのか、これからの自分たちの生き方につなげて考える。	・ 部落解放だけでなく、すべての人間の解放であることに気づかせる。 ・ 誇りうる生き方とは、どういう生き方なのか考えさせる。